1　ぼくと HIV のささやかな歴史

ぼくがエイズという病気と初めてまじめに取っ組み合ったのは 1991 年のことです．島根医科大学の学生だったぼくたちは，有志を募り，「エイズから社会を考える会（略称，エーから）」というサークル（？）を立ち上げました．

当時はまだエイズは不治の病でした．かかったら死ぬ病気だったのです．ですから，ぼくら医学生の活動も，エイズで亡くなった患者の追悼を行ったり（メモリアルキルトを展示したり，という活動をお手伝いしていました），予防のための性教育を中学校や高校で行ったりしていました．

当時からジドブジンなどの抗 HIV 薬はありました．しかし，エイズは当時，まだ薬で治る病気ではありませんでした．

ぼくらもときどき勉強会とかして，（当時は新規的な治療薬だった）「プロテアーゼ阻害薬の作用機序」みたいな議論をしていましたが，どうしても観念的というか，地に足のついていない感じは否めませんでした．まあ，教科書や論文を読んで勉強会をするよりも，シンポジウムを開いたり，性教育の授業をやったりする「活動」のほうが若くてナイーブな医学生の気分によりフィットしたという理由もあるでしょう．あまり治療薬については十分勉強できなかったようです．この頃は，広島にいらした高田昇先生とか，駒込病院にいらした根岸昌功先生にお会いして，HIV/エイズについていろいろなご意見を頂いていました．どちらかというと医学的な問題よりも社会的な問題（薬害エイズ問題とか）のほうに興味があったのです．

大学を卒業した後，ぼくは沖縄で 1 年間の初期研修をうけました．その後，アメリカに渡り，内科研修医としてニューヨーク市の病院で働くようになります．これが 1998 年のことです．

最初はエイズの勉強どころではありませんでした．英語も苦手でアメリカの生活にも，病院や医療の仕組みも全然わかっていなかったぼくは，毎日を大過なくやり過ごすので精いっぱいだったからです．そもそも，基本的な内科の知識も全く足りていなかったのです．エイズの勉強よりも，心筋梗塞や糖尿病，高血圧といった病気の対処法を勉強するので手いっぱいでした．

JCOPY 498-01783

すでにHAARTと呼ばれる非常に効果の高いエイズ治療方法は開発され，実用化されてはいましたが，まだまだ重症のエイズ患者が多かった頃です．「HIV病棟」というのがありまして，病棟いっぱいにエイズ患者が入院していました．そこをローテートしたときに，ニューモシスチス肺炎やクリプトコッカス髄膜炎の治療法を学んだのですが，外来での抗HIV薬の使い方のレクチャーを受けてもちんぷんかんぷん．全然理解できませんでした．抗HIV薬って本当にわかりづらい…勉強しにくい…はっきり言って苦手．ぼくの第一印象はこんな感じでした．

ときに，このころ，研修していたセント・ルークス病院でHIV研究に従事されていた稲田頼太郎先生と知己を得ます．イナダ・ヨリタロウとイワタ・ケンタロウが似ていたので，間違えられた手紙を届けに行ったのがきっかけでした．稲田先生は研究活動の傍ら，日本人のエイズ診療や，医療者の米国での研修をお手伝いしていました．その後，ケニアに活動拠点を移され，NPO法人イルファーを立ち上げて様々な活動を行っています（https: //inadaetal.wordpress.com/ilfar/）．このケニアでの診療支援に神戸大学病院感染症内科が毎年お手伝いに伺うようになるわけですから，縁というものはわからないものです．

で，2001年になり，ぼくは同じくニューヨーク市にあったベス・イスラエル・メディカル・センターの感染症フェローになりました．HIVの外来診療はピーター・クルーガーという名前のクリニックで行っていました．この時期，まだエイズ病棟はありましたが，程なく入院患者の激減のために病棟は閉鎖になります．HAARTによる劇的な診療風景の変動期にぼくは感染症の手ほどきを受けたのです．このころのART（HAART）はコンビビル®（AZT/3TC）とかカレトラ®(LPV/r)なんか使ってた時代で，今ではあまり診なくなった日和見感染(OI, opportunistic infections）をたくさん経験できた（せねばならなかった）時代でした．

で，2003年からの北京で1年間の診療所時代を経て，ぼくは2004年から千葉県の亀田総合病院に異動しました．ここでもHIV感染者たちは診ていましたが，比較的患者数は少なかったです．その後，2008年から神戸大学に異動して，感染症内科を立ち上げ，外来や入院でのHIV/エイズケアに従事するようになりました．また，兵庫県立加古川医療センターのお手伝いもするようになり，エイズ拠点病院である本院のエイズ診療医として患者ケアを行っています．

2　なぜ，抗 HIV 薬は「わかりやすく」なったのか

2011 年の前作では，ここで「なぜ抗 HIV 薬はわかりづらいのか」というセクションを置いていました．ビギナーがつまづきやすい，薬のわかりにくさを説明したのです．

が，2019 年の現在では，抗 HIV 薬は少しもわかりにくくありません．

なぜかというと，治療方針が（ほぼ）画一化され，わかりやすくなったからです．むしろ，高血圧とか，糖尿病の薬のほうが種類が多くて選択が難しくて，わかりにくいような気すらします．

というわけで，ここでは「わかりやすい」HIV 治療薬について，「ここだけ知っとけ」という点をお伝えしたいと思います．まじで，ここだけ読むだけでも，大抵の人には十分です．

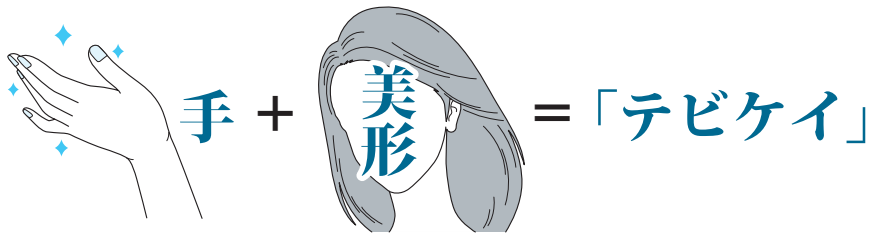
抗 HIV 薬の名前は複数ある

他の領域でもそうですが，HIV の薬にも複数名前があります．

まずは，一般名と商品名．

例えば，ドルテグラビルという抗 HIV 薬があります．長い名前ですが，まあ，例の何百もあるモノクローナル抗体製剤の，なんとかマブとかに比べれば，比較的覚えやすいのではないでしょうか．

で，ドルテグラビルという一般名に呼応する商品名は「テビケイ®」といいます．こっちはもっと簡単ですね．覚えやすい．それでも覚えられん，という方は，



JCOPY 498-01783

そうですね．美しい手をした令嬢（とか少年とか）をイメージしてください．「手，美形？」．はい，もう覚えましたね．忘れたくても頭にこびりつきますね？

くだらない冗談はこのくらいにして，もう一つ，抗 HIV 薬には呼称があります．略語です．ドルテグラビルは，

DTG

という 3 文字で略します．まあ，そんなもんかな．と思いませんか．抗菌薬にも略語はあるので，まあ慣れればどってことはありません（ただし，イワタは略語が苦手で，抗菌薬でも略語は殆ど使わない）．

ただ，抗 HIV 薬には DRV とか似たような略語もあるので，慣れないうちは混乱するかもしれません．ちなみに，DRV はダルナビルという薬の略語です．慣れてないときには略語は使わなくても大丈夫ですし，その都度，調べても一向に問題はありません．

あとはまあ，符丁もあります．臨床現場ではドルテグラビルを略して，ディーティージーとは言いません．言っても通じない人のほうが多いでしょう（たぶん）．むしろ，

「ドル」

と略してしまいます．アバカビルという薬はアバカ，ラルテグラビルはラル，と略します．アルテイシア様！　ガンダムネタはいいかげんに卒業しろ！

ま，そんなわけで，抗 HIV 薬にはたくさんの名前がついて回るのですが，慣れないうちは一般名だけ覚えればそれでよいです．あるいは商品名だけ覚えていてもよいです．ぼくもフォシーガ®（糖尿病の薬）の一般名は覚えていませんし，エタネルセプトの商品名（エンブレル® など）もすぐには出てきません．他領域の薬なんてそんなものです．略語や符丁に至っては，慣れないうちはむしろ違和感があるので，無理に使わなくてよいです．ナオンとザギンでシース，とかを島根県人のぼくが使うと恥ずかしいです．わからない人はべつによいです．

ついでにもう一つ朗報を申し上げておくと，抗 HIV 薬ってジェネリックがほとんど存在しないのです．ジェネリックが他種類あると，勤務する病院ごとに薬を覚え直し，なんて面倒くさいことにもなりかねませんが，そういうことは HIV ではほとんどありません．なので，むしろ他領域よりも薬の名前的には楽なのです．

Point

◆ 抗 HIV 薬は，一般名，商品名，略語（と符丁）がある．

◆ 抗 HIV 薬は難しい．勉強したくない．覚えられない．という先入観を捨てよう．ジェネリックがほとんどないぶん，糖尿病やリウマチの薬よりも，案外，覚えやすい．

抗 HIV 薬は組み合わせて使う

さて，抗 HIV 薬は単剤では用いません．必ず複数の薬を併用します．結核とかと同じですね．

で，併用療法というのはわかりづらい印象があるのです．組み合わせがたくさんありますから．

しかし，抗 HIV 薬については，もう難しくはありません．現実に医療現場で使われるコンビネーションはほとんど画一的に決まっているのです．降圧薬のコンビネーションのほうがずっと複雑でわかりにくい（そして，誤用されやすい！）くらいです．

で，おすすめとしては，まずは 1 種類の組み合わせを覚えましょう．どうしてかというと，1 種類覚えてしまえば，他のコンビネーションもほとんどこれの「バリエーション」に過ぎないからです．一つの型を覚えてしまえば，あとはちょっとした応用問題なんです．怖くない，怖くない．

併用療法の場合は，略語を使ったほうがむしろわかりやすいです．理由は簡単，短いから．

そうですね，例えば，さっきのドルテグラビルを使ってみましょう．

DTG/TDF/FTC

はい，これが併用療法です．基本的に，抗 HIV 薬……ここからは antiretroviral therapy，ART と略しますが，3 剤併用が基本です．

Point

◆ ART は原則，3 剤併用．

DTG はさっきでた，ドルテグラビル．TDF はテノホビルという別の抗 HIV

JCOPY 498-01783